

平成23年度第2回公民館運営審議会議事録
(要点)

日 時 平成23年6月10日(金) 午後7時～9時
場 所 永山公民館4階 視聴覚室
出席者 委員 9名
職員 5名
傍聴者なし

1. 内 容

(1) 議事録署名人 委員を指名する

(2) 館長報告

社会教育委員の会議報告

5月19日木曜日、社会教育委員の5月定例会議が開催された。

前回の公民館運営審議会の中で社会教育委員の会議の答申書について、委員にご検討いただいたが、それも含めて公民館から報告し、全会一致で社会教育委員の会議の答申書が確定した。事務局あるいは委員長からお口添えを頂き、委員のご意見、「今回の答申書自体、子ども・学校教育に大変重点があるが」ということも申し送りをした。社会教育委員もその点は十分ご承知で、今回の答申書そのものが今まで行っていた事業とは別に新たな動きをする、新しいポイントを答申書にまとめたものである。

引き続き答申書の内容が実現されれば、(仮称)地域教育推進審議会に改組された場合も、図書館を含め社会教育施設としての公民館の活動を広く審議、議論していくことができる。特に今回の答申では(仮称)地域教育推進審議会が社会教育委員の会議と公民館運営審議会をベースに改組されるので、公民館運営審議会の機能も取り込んでいける。

委員長 前回の審議会ですべての議論があったが、最終的に確定されたものには委員の意見を取り入れて若干の手直しをされたものが承認されたということだ。実際読まれると、まだだと思われるかもしれないが、盛り込める視点は盛り込み、前回の原案となっているものが承認された。

委員 どういうふうに修正されたのかわからないが、後5年10年すると多摩市の人口構成が大きく変わる。高齢化率が東京都平均より上にいく。高齢者が増加するなかで公民館とコミュニティセンターが一体となった生涯教育・生涯学習の体制を敷いていかないと手遅れになる。そういう視点で高齢者の社会教育を捉えていかないと、多摩市は時代遅れになる。介護保険料も多摩市は上がっている。そのうち払いきれなくなる。高齢化対策をしっかりとらないといけない。

そのためには公民館が独立した活動をしているだけではなく、コミセンと一体となって活動しなくてはならない。公民館の数を見ると長野県は1万人当たり8つで1位、山梨県は6つで2位、多摩市は1万人当たり0.1ない。大変少ない。

もっと高齢者が活躍する場を作っていけないといけない。時代が大きく変わろうとしていることを認識し、率先して公民館が新しい街作りをする姿勢が必要である。是非前向きにやってもらいたい。

委員長 団塊の世代が5年程で65歳になる。そうした時代における新しい時代教育・生涯学習が課題である。そのためのワンステップとして、いま踏み出している。問題意識としては委員が共有している。

(3) 事業の進捗質疑。

事務局 資料1、2（資料の説明） 永山・関戸の事業の進捗状況、施設別使用状況についての質疑があれば伺う。

委員 4月は24日まで夜が使いえなかったということだが、4月の永山の使用状況は5月に比べると低いが、関戸はあまり変わらない。

事務局 4月については計画停電の見通しが立たず、キャンセルされたりする状況が一般的にあった。またホールについては、昨年10月まで火曜・金曜の午前中の枠を舞台転換に使っていたが、これを時間外に転換作業を行うことにし、利用可能枠を増やしたので、ルールの変動が加味された4月は変則的だった。5月からは平常に戻りつつある。

委員長 関戸の場合、人数を見ると増えているが部屋の使用率が上がっていない。大人数の集まりがあったということか。

事務局 その点は月毎に傾向がある。本年4月は昨年より減っているため夜間使いえなかった影響がある。

委員 夜間の部屋の使用率が少なく、もったいない。

事務局 ホールについては夜間料金が高いので午前午後を選ぶケースが多い。もう一つはたとえば保育室は、夜間は使われない。関戸の茶室など特徴的な部屋については利用が限定される。逆にその実態を踏まえ、夜間を積極的に活用していただくPRをすべきと考えている。

委員 夜間使えない期間が長かったので、それまでの夜間の利用者が他市の施設に流れたとの話も聞く。他館に定着されたら困る。

事務局 反省材料ではある。

委員 夜間利用の可否の決定が他市と比べて遅かったのでは。利用者側からみるとキャンセル料だけ払ったものもあるのではないか。

事務局 計画停電の見極めも難しかったので後手に回ってしまった部分もある。

委員 予約された方の変則的なお金の支払い方法をとっていたが、通常方法に戻った時の情報がいきわたらず、抽選で当たったと思っていたら、予約解除されていたというケースが多々あったと聞く。支払方法を通常に戻すというお知らせが広報に載っていたらしいが浸透していき、キャンセル扱いとなり、気がついたときは他の方がとってしまったというケースがあって、混乱があったようだ。

事務局 あらかじめ予約されていた方には先行してお知らせするようにはしていたが、一部徹底できなかった面はある。
夜間の閉鎖に関して、5月については近隣の市町村、稲城市など夜間は休館を続けているところが多いので、他市に流れて定着というのではないのではないか。計画停電を踏まえた閉鎖決定の判断も早かったが、4月25日からの夜間開館も近隣他市より早かったと思う。

予約手続きについての情報が、すべての利用者に行き渡らなかったのは残念だが、張り紙の件については5月いっぱいくらいまで、すべての部屋の入り口に予約の扱いについての張り紙をしてある。また窓口の鍵の受け渡しの際にも案内した。それで十分ではなかったのが結果的にキャンセルされてしまったということと思う。今後、同様のことがあった場合は、今回のことを反省材料として対応していきたい。

委員 キャンセルがメールでできるならばお知らせもメールで送ってもらえないのか？支払方法の変更のお知らせもメールで来ていたならすぐ気がついたのという意見もあった。別のシステムがあるのか？

事務局 予約システムは1つだがインターネットで予約すると仮予約確認のメールが自動的に行く。登録の時点でのアドレス記入違いなどの理由で、その後のメールが届かないことがある。期限が来るとキャンセルのメールが自動的にいくので。

委員 その辺がうまくいけばと思う。

委員長 今回はまさに危機管理が問われた。今後万が一一大災害などがあった場合の対応を検討頂きたい。

委員 資料2：23年4月の永山公民館の使用状況を関戸公民館の使用状況と比べると使用可能件数に大きな開きがある。

事務局 永山は、閉鎖していた夜間も含めての稼働状況を含めた形で記載しているので次回修正した資料を差し替える。

(4) 議事

委員長 平成22年度の事業報告、資料3について説明を。

事務局 前回事業計画書の提出にあたり関戸・永山公民館の様式統一の要望があったが今年度は震災対応で間に合わなかった。永山公民館の22年度の事業報告について。当初の事業計画の中で地域課題を解決する・地域力を高めるきっかけづくり

の事業ということで、それぞれの世代の地域課題を見つけつつ、テーマに沿って講座を行ってきた。

その中で公民館独自に企画するだけでなく地域課題を見つけるという点で市民の参画を多く取り入れながら、また、市民だけでなく団体、地域の大学の方と共に企画をする事業を取り入れている。それに参加した人が学習をしながら、地域に関心を持っていただいた中からネットワークができて地域で活躍していく人材ができるような形の事業ということを目指してきた。

永山では、主なものとして「ベルブゼミ」。これは 市民有志が企画委員として毎月1回の企画委員会を開き、年間テーマを決めている。昨年は連続9回実施。「自分の老後は自分で備えよう」とのテーマで、自分たちの老後は何が必要か、今、地域にはネットワーク作りが必要なのだ、という自分たちの課題を連続9回の中で学習しつつ、アフターグループもできている。

家庭教育においては、子育て支援事業ということで年間12回の連続講座を行った。子育て期のお母さんたちの学習しながら、子ども達の成長も見つつ、ネットワークづくりの場となっている。こちらもアフターができている。今年は市民企画講座ということで活動をしている。地域課題を見つけながら地域力という面で、さまざまな人材を育成していくような事業をしてきた。

事務局

関戸公民館は、年間約9万人の方が公民館を利用、活動しているが、それとは別に、市民ロビーを利用している方々もいる。またロビーでの講座・活性化事業を実施。あるいは地域ふれあいフォーラムなどの事業などを展開している。全体では体系として7つの柱立てで事業を実施している。

昨年度はたとえば、地域の課題を解決する事業ということで地域貢献講座を実施。これは定年を迎えた方が地域で活躍していただくため、地域での、いわば市民プロデューサー養成講座である。昨年度は3回で終わったが今年度は実践編である。

その他ホールでの講演会を実施し大きな成果を上げている。また音響特性も生かし、ショパンレクチャーコンサートも実施している。そのように施設の特性を生かした事業を展開している。

昨年度まで、働いている年齢層に対するアプローチは弱かったが、そのような課題については、今年度は土曜の午前中や、水曜夜の講座を開き、働いている方も参加し易い時間帯に設定するなどしており、これまでの課題を今年度に反映していきたい。

委員長

多摩市の公民館事業は市民力を生かした取り組みというのが特徴的である。市民の各団体と連携した事業を展開している。

委員

公民館で是非多摩テレビを通して映像で見られるようにしてほしい。現場（公民館）に来なくてもコミセンで見られるとかインターネットを活用すればもっと参加者も増えるのではないか。スケジュールに関してもテレビをもっと活用すればよいと思う。いろいろやっているのが参加した人にしかわからないのがもったいない。

委員長

多摩テレビでの講座の放映は今まではあったのか？

- 事務局 多摩テレビは、市が出資しているが多摩市の公営放送ではない。今までの実例では多摩テレビが興味を示したものについては地域の内容ということで取材・放映しているが、Webを使った講座内容の共有方法は、一部地域大学で実施されているので研究して取り組みたい。多摩テレビに関しては難しいと思う。
- ちなみに今年度の事業では、「わがたま」というCMコンテストがあるが、これに関して活動の状況含めて、事業の告知も多摩テレビで流していただくが、それを皮切りに進められればと思う。
- 委員長 いい意味で多摩テレビとは協力関係で広報していただければありがたい。それと別に多摩市または公民館で、今の時代のネットをもっと活用しても良いのでは。FM多摩の終了の影響は大きい。それに変わるもの、というより、むしろネットの活用を模索すべきである。
- 委員 関戸に関して、保育室開放デーを増やしていただけて感謝する。「薬物乱用防止講座」を落合地区でしているが、これを全地域でしてほしい。
- 事務局 地域団体・学校と相談して効果的にやっていきたい。
- 委員 多摩市全地域の学校を回っていただきたい。昨今薬物乱用の問題は多くなっている。
- 事務局 ニーズを考慮し計画していきたい。
- 委員 講座ごとにアンケートをとっているがその後どう処理されているのか？
- 事務局 今年度から事業毎に公民館側としてたずねたい部分については自由記述としている。自由記述部分はその都度、講師に返し、後日または次回に講師から返答をいただく。もう半分は、どの事業でも傾向を分析できるように統一的な項目としている。使い方として、講師が受け止められ方の参考にするものと、公民館側が新たな事業を実施するとき、どういうものに興味をもたれているか参考にするものとの2点ある。
- また、5段階評価を全部の事業で展開しているが、どの事業の評価が高かったかわかるようになれば理想的である。
- 委員長 個別事業も重要だが全体的傾向の分析も重要。
- 委員 中学校は文化的授業、薬物乱用・食育的な分野などで、外部講師・外部団体にきていただく場合が多いが、予算がないので、なるべく公的な機関、保健所・警察などからきていただく。
- 移動プラネタリウム・人形劇など、公民館が小中学校の間に入ってコーディネートしてもらえたらと思う。文化・スポーツなどの指導で学校を回してほしい。今の時代、学校だけでなく外部から先生を呼びたいが予算がないので、公民館の企画がうまく学校とつながればということをお話したい。

- 事務局 個別にご相談させていただく。
- 委員長 公民館で学んだことを地域に生かして、子ども達に還元したりしていく流れを作ると地域の社会教育は活発化していく。まさに公民館は学習の場を提供するだけでなく、そのような所に活動領域を広げていくことが必要かと思う。
- 委員 和楽器の指導で学校を回っているが、来年度からの新指導要領は先生方だけでは対応できない分野のものが多々あるので困っているそうだ。本来は教育委員会で人材確保を手厚くしていくべきだと思うが、専門分野に関して子どもに教えるのにきちんとしたレベルをもって指導しなくてはならない中で、千円で来てくれるボランティアを探すのは難しい。公民館もできることがあればお願いしたい。
- 事務局 趣旨からすると、公民館は児童だけでなく、高齢者層まで広くカバーしている。予算の措置に関しては、教育委員会に申し送りするが、先ほど報告の出前事業は、公民館は予算を担保するものでなく、(学校と)地域や講師とつなぐということに重点を置いている。ご意見の部分は共有していく。
- 委員 公民館は情報をたくさん持っているのでそれを学校に提供するだけでも先生は助かる。
- 委員 公民館主催の場合、クリアすべき問題はいろいろある。生徒だけ、学校だけの企画は教育委員会の仕事だが、多くの学校でこうしたものを企画するときは、保護者や一般の方に声をかけ、対象を広げている。教育委員会と学校のつながりは当たり前だが、むしろ公民館やコミュニティと(学校が)一緒になって、積極的に一つのを企画することは素晴らしい。多摩市でESDを推進しているが、児童・生徒だけでなくそのうしろにはいつも一般の方がいるという発想でやっている。そうした一般の方々も会場に多数参加のようであれば可能と思う。
- 事務局 事業の7つの柱の中の1つが家庭教育・学校教育の支援。年間の事業計画を立てるときあらかじめ学校と意見交換し希望を聞いたうえで事業計画を立てる。具体的には関戸公民館は近隣の学校に聞いているが、今後、校長会などでも意見を聞き、より幅広い要望を聞いた事業を展開していきたい。
- 事務局 次回開催、7月8日(金)午後7時から。議題については夏期の節電について両館の対応状況の報告。地域教育推進審議会に向けての活動の報告。
- 委員長 以上で閉会します。